Ⅳ　共通教育で実施されている「学生による授業評価」－平成 14 年度集約結果の公表

共通教育は平成 12 年度に外部評価を受けた[1) 2) 3)]．外部評価で指摘された課題の一つが，教員の授業改善の一方策として，学生による個々の授業の評価を求めるアンケートを実施すべきということであった．この指摘に対応するため，平成 13 年度の共通教育委員会は「学生による授業評価プロジェクトチーム」を設置した．学生による授業評価プロジェクトチームとその研究チームは，共通教育で適切かつ継続的に実施できるような学生による授業評価フォーマットを検討・作成し，平成 13 年度 2 学期開講の全授業題目でプレテストを実施した.プレテストの分析結果とフォーマットの改善点は報告書として刊行された[4)]．平成 13 年度共通教育委員会は，改善したフォーマットに基づき,平成 14 年度から毎学期すべての授業題目において恒常的に学生による授業評価を実施することを決定した.

平成 14 年から,共通教育自己点検評価委員会が学生による授業評価を実施する責任母体となった.平成 14 年度共通教育自己点検評価委員会は,前年度に行われたプレテストの実施上の問題点とフォーマットを改善し，1 学期および 2 学期に共通教育で開講されたすべての授業について学生による授業評価を実施した．実施にあたり，当該委員会は実施要綱を審議・決定した．実施要綱では，学生による授業評価の目的，データ管理，データのフィードバック，データの公表，実施日程などが定められた．このうち，データの公表については，授業科目区分ごとに各評価項目の平均点を公表することとした.

本年度の点検評価年報では，共通教育における「学生による授業評価アンケート」実施要綱，平成 14 年度 「学生による授業評価アンケート」の結果の概要，および 1 学期と 2 学期における授業科目区分別評価平均値を記載する.

１．共通教育における「学生による授業評価アンケート」実施要綱（平成 14 年 5 月 30 日了承）

（1）学生による授業評価アンケートの目的

個々の授業の改善のためにそのデータを教員が利用するということが基本になるが，もちろん学生にとっても意味をもつ.

教員にとっては，まず，学生が全体として，授業のなかで何を感じているか，授業に対してどのような印象をもっているかということを知ることによって，授業を行う際の参考にすることができるという意味がある．さらに，それにとどまらず，自分の授業スタイルあるいは教授スキルそのものの再検討をおこなうというＦＤ的な機会ともなりうる.

学生にとっては,自分の授業への取り組みをふりかえり,反省するきっかけとなるはずであるし，さらに，アンケート結果のデータが学生にオープンにされた場合，他の学生のレスポンスとくらべることによって，例えば「この授業は自分にはつまらないが，おもしろいと思っている学生も案外いるのだ」といったように，授業に対する自分の取り組みを相対化する機会ともなる.

さらに，アンケートの目的がそのようなものであることを考えると，アンケートは，日常的な授業のひとコマとしてルーティン化され，恒常的におこなわれなければならないと言える．そこで今回のアンケートも，さしあたり２年 (2002 年度と 2003 年度) に渡って学期ごとに行う計画とする.

（2）データ管理

アンケート結果に関するデータの管理責任は当委員会にあることになるが，おそらく，最も危惧しなければならないことは，公表されたデータが教員に対する（例えば，教育業績などの）査定のためなどに用いられてしまうことである．少なくとも，個別授業ごとのデータの公表がそうした意味合いで受け取られることが予想される間は，当委員会として個別データの公表は行わない．もちろん，学内のさまざまな委員会などによって，カリキュラムの検討，自己点検，ＦＤ，研究などのために，アンケートによって集められたデータが利用され，あるいはその結果が報告書などのかた

ちで公表されるということはあり得ることではあるが，その際も個別データの公表は行わない（データを匿名で扱う場合も，どの授業のデータであるかが特定可能とならないようにする）ことを条件とする．

したがって，個別データが記載された報告書を作って学生に配布するということを当委員会は行わない．アンケート結果を学生にどのようなやりかたで知らせるかについては各教員にまかせることにする．

（3）データのフィードバックについて

1）授業担当者へのフィードバック

個別授業のデータは，授業の担当者にのみ知らせる．授業科目区分の平均点を添える．その際，担当以外の全ての授業区分の項目の平均点も添える．

2）学生へのフィードバック

各自の授業評価結果を学生にどのように公表するかは，授業担当者に任せる．

（4）教員および学生へのデータの公表について

授業評価アンケート結果は，授業科目区分ごとの各項目の平均点を公表することとする．公表の方法は，高知大学ホームページに新着情報として結果を掲載する，あるいはグループウエアの掲示板での公表などが考えられる．

・アンケート結果公表時の授業科目区分一覧

○基軸教育科目

大学学 講義 1，日本語技法 講義 2，情報処理 Ⅰ 講義 3，健康 講義 4，大学英語入門 演習 5，英会話 演習 6，情報処理 Ⅱ 演習 7

○教養教育科目

分野別科目： 人文 講義 8，社会 講義 9，自然 講義 10

外国語科目： 演習 11

主題別科目： 人間と文化 講義 12，生活と社会 講義 13，地域と市民 講義 14，自然と環境 講義 15，自然と環境 演習 16，スポーツ科学 講義 17，スポーツ科学 実技 18

総学科目 ： 講義 19

○基礎教育科目

人文１ 演習 20，人文２ 講義 21，社会 講義 22，自然 講義 23，自然 実験 24

○日本語・日本事情に関する科目

日本語 演習 25，日本事情 講義 26

（5）学生による授業評価アンケート実施日程について

1）調査時期　　２学期　11 月 18-29 日

2）袋詰め・配布　　２学期　11 月 12 ないし 13 日

3）調査対象　　開講されている共通教育全授業

4）調査内容・項目　　講義：12 項目　演習：13 項目　実技・実験：14 項目

———

質　問　項　目

1　シラバスに即して授業が行われていますか．

2　授業担当者の声や言葉，話し方は明瞭でききとりやすいですか．

３　配布資料や視聴覚教材，テキストは適切に利用されていますか.
４　授業の進度や内容の量，時間配分は適切ですか.
５　授業から触発され，問題意識をもつことが多くありますか.
６　授業担当者の授業に対する熱意を感じますか.
７　講義室の状態（広さや明るさ，室温）や設備は適切ですか.
８　この授業の受講生数は適切ですか.
９　この授業にあなたはよく出席しますか.
10　この授業であなたは私語をしますか.
11　この授業にあなたは意欲的にとりくんでいますか.
12　全体としてこの授業に満足していますか.（演習，実技・実験のみ）
13　この授業では受講生同士協力することができていますか.（実技・実験のみ）
14　この授業では安全に関する適切な指導と配慮はなされていますか.（実技・実験のみ）

———

５）実施に当たっての留意点・問題点

①　少人数授業の場合，学生のプライバシー保護のために，回収および封入を学生に行ってもらうように，授業担当者に依頼する.

②　自由記述結果については集計したものを教員に通知する.

６）アンケート実施に関する今後の日程（予定）

10 月 21-24 日　　第３回自己点検評価委員会（持ち回り）.
10 月 24 日　　封筒の発注.
10 月 24 日以降　　ソフテックと技術面の確認.
11 月 7 ないし 8 日 学生（掲示板）及び教員（ペーパー・メイル・グループウエア掲示板）にアンケート実施のアナウンス（和文・欧文）.
11 月 12 ないし 13 日までに　　タックシール・欧文調査票・調査依頼文（和文・欧文）. 封筒納品.
11 月 12 ないし 13 日　　ふくろ詰め・配布. 学生アルバイト（4 名　各 5 時間）.
11 月 18 日までに　鉛筆の準備.
11 月 18-29 日　　アンケート実施期間および回収期間.
12 月 2 日　　自由記述集計の発注.
12 月 16 日まで　　フィードバック用のお知らせ（和文・欧文）作成.　タックシール準備.
12 月 16 日　　結果の集計完了（データおよび自由記述）.
12 月 16 日　　結果の通知.

２．学生による授業評価アンケートの実施概要と結果

（1）実施の概要

2002 年 1 学期の学生による授業評価は 7 月 1 日から 12 日に実施し，この期間は 1 学期の 12 週目から 13 週目に該当する．この時期に実施した理由は，学期中に授業評価を実施した学生にアンケート結果を知らせるとともに，教員に対して，たとえ 1 回の授業でもアンケート結果をもとに，授業が改善されることを期待したからである．そのため，アンケート回収後約 10 日間で，授業ごとの平均点と科目別回答平均点の結果を各授業担当者に返した．しかし，現時点において，学生に対する結果の通知は各授業担当者に任されているため，学生への通知がどの程度行われているかは不明である.

2 学期の調査では，さらに実施時期を早め，授業開始から８週目，または９週目にアンケートを実施した．1 学期と同様に，アンケート回収後 10 日で結果を各授業担当者に返した．アンケートの実施時期を早めたことで，授業内容が十分確認できない時点で評価することになるなどの問題点も指摘されたが，本学共通教育の学生による授業評価アンケートは，個々の授業改善を目的として実

施されているため，授業担当者が授業を改善するための時間を確保することは必要なことであり，そのことを考慮して調査時期を設定した．

（２）有効回答数および回収率

アンケート有効回収数の学生・授業担当者別，および授業形態別の結果は表１・表２に示すとおりである．

アンケート対象授業題目数は，１学期 238 題目，２学期 236 題目である．回収数をみれば，両学期とも非常に高い割合でアンケートが実施・回収されたことがわかる．特に，１学期は 215 授業題目が回収されており，回収率は 90.3%である．２学期は 76.3%であった．授業担当者が授業評価アンケートに積極的に協力していることが伺える．しかし，回収した調査票の中には，学部，学年，性別の記入不備があるものがみられ，１学期はそれらを無効票として集計からはずした．２学期についてはそれらすべてを無効票として集計からはずすことはせずに，項目ごとの不明数として算出した．

２ 学期は無効票を出来るだけ少なくするために，学生に注意を喚起したことや，学生が調査に慣れたことなどから，無効票が減少した．

表１　有効回答数および回収率　（１学期）

	授業形態	配布数	回収数	無効数	有効数	有効回数率 %）
学生	講義		6,205	59	6,146	99.0
	演習		2,710	193	2,517	92.9
	実技 ･実験		166	9	157	94.6
	合計		9,081	261	8,820	97.1
授業担当者	講義	125	111	0	111	100.0
	演習	101	93	0	93	100.0
	実技 ･実験	12	11	0	11	100.0
	合計	238	215	0	215	100.0

表２　有効回答数および回収率　（２学期）

	授業形態	配布数	回収数	無効数	有効数	有効回数率 %）
学生	講義		6,380	77	6,303	98.8
	演習		1,922	26	1,896	98.6
	実技 ･実験		280	7	273	97.5
	合計		8,582	110	8,472	98.7
授業担当者	講義	150	113	0	113	100.0
	演習	69	55	0	55	100.0
	実技 ･実験	17	12	0	12	100.0
	合計	236	180	0	180	100.0

（３）科目区分別回収数

「基軸教育科目」「教養教育科目」「基礎教育科目」「日本語･日本事情に関する科目」ごとの回収数，および学生の内訳を示したのが表３・表４である．

１学期の授業担当者総数が 168 であり，表１の総数 215 と異なっているのは，回収後のＯＣＲ用紙を読み込み，データにする過程で無効となった調査票があるためである．授業申請コードが読み取れなかったり，学生と授業担当者との調査票が混在していたために，授業担当者用として認識できなかったケースである．2 学期では，読み取り段階での無効票をなくすために，授業担当者やデータ入力者に対して理解と協力を得たために，読み込み段階での無効票はなくなった．

表３　科目区分別回収数（1 学期）

		基軸教育	教養教育	基礎教育	日本語・日本事情	総計
授業担当者		53	70	42	3	168
学生		2,858	3,755	2,191	16	8,820
学生内訳						
性別	男	1,385	1,920	1,180	10	4,495
	女	1,473	1,835	1,011	6	4,325
学部別	人文	946	1,267	785	8	3,006
	教育	574	698	176	4	1,452
	理	756	1,128	725	3	2,612
	農	582	662	505	1	1,750
学年別	1年	2,756	1,981	1,052	10	5,799
	2年	92	977	823	5	1,897
	3年	9	584	209	1	803
	4年以上	1	213	107	0	321

表４　科目区分別回収数（２学期）

		基軸教育	教養教育	基礎教育	日本語・日本事情	総計
授業担当者		56	91	32	1	180
学生		1,373	5,197	2,002	10	8,582
学生内訳						
性別	男	673	2,641	1,027	4	4,345
	女	694	2,503	949	5	4,151
	その他	6	53	26	1	86
学部別	人文	458	1,727	759	5	2,949
	教育	320	1,036	261	3	1,620
	理	442	1,438	644	1	2,525
	農	147	945	313	1	1,406
	その他	6	51	25		82
学年別	1年	1,327	3,066	1,102	7	5,502
	2年	24	958	632	1	1,615
	3年	13	886	167	1	1,067
	4年以上	6	240	78		324
	その他	3	47	23	1	74

（4）**授業形態別回収数**

授業形態別回収数を表５，表６に示す.

表５　授業形態別回収数　（１学期）

		講義	演習	実技・実験	総計
授業担当者		83	76	9	168
学生		6,012	2,651	157	8,820
学生内訳					
性別	男	3,083	1,321	91	4,495
	女	2,929	1,330	66	4,325
学部別	人文	1,850	1,148	8	3,006
	教育	1,013	415	24	1,452
	理	1,823	688	101	2,612
	農	1,326	400	24	1,750
学年別	1年	3,902	1,797	100	5,799
	2年	1,292	572	33	1,897
	3年	598	195	10	803
	4年以上	220	87	14	321

表６　授業形態別回収数　（２学期）

		講義	演習	実技・実験	総計
授業担当者		113	55	12	180
学生		6,380	1,922	280	8,582
学生内訳					
性別	男	3,300	910	135	4,345
	女	3,018	993	140	4,151
	その他	62	19	5	86
学部別	人文	2,057	817	75	2,949
	教育	1,237	343	40	1,620
	理	1,976	426	123	2,525
	農	1,052	317	37	1,406
	その他	58	19	5	82
学年別	1年	4,084	1,211	207	5,502
	2年	1,122	470	23	1,615
	3年	876	160	31	1,067
	4年以上	247	64	13	324
	その他	51	17	6	74

（5）**学生による授業評価結果　―科目区分別平均点―**

共通教育授業担当者には，個々の授業について受講生の項目ごとの平均点と科目区分別の平均点の結果をフィードバックしている．科目区分別平均点は，当該年報のみならず，ホームページ上に

も掲載することで全教職員や学外に対して公表する計画である.

１学期，２学期の科目別回答平均点の一覧を末尾の表７と表８に示す.

（６）今後の課題

高知大学の共通教育では，2002 年度「学生による授業評価」を実施してきたが，「学生による授業評価」を実際の授業改善に活かしていくために,今後の課題として次のようなことが考えられる.

第一点は，大学全体のＦＤ活動の推進が重要である．ＦＤ活動を通して「学生による授業評価」の意義や位置づけを明確にし，教員の教育に対する責任と自覚を促すことが重要である．本学共通教育では，学生による授業評価は個々の教員の授業改善を目的にしているので，学生からの授業評価を受けて具体的にどのように授業内容を高め，授業方法を工夫していくかという研修や啓発をＦＤの一環として取り入れていかなければならない.

第二点は，大学の授業評価に関する研究を推進することが重要である．学生による授業評価だけではなく，例えば，共通教育で既に実施されてきている教員の相互授業参観を含め，複数の手法を併用して継続的に授業を改善し，評価するシステムを構築することが必要である．また，授業評価を受け，その後の授業に改善が見られたかどうかを検証するシステムも必要となる.

本来，授業の評価は，授業を受けた学生がどの程度達成感を持ったかを基準にしてなされるべきと考える．学生自身が成長した，知識と考え方を獲得することができたと自覚できる授業を創っていくために，適切かつ正当な授業評価のありかたを考えていかなければならない.

参考資料

１）「共通教育外部評価報告書」，高知大学共通教育自己点検評価委員会，pp. 129，2001 年 2 月
２）森正夫：「高知大学共通教育の外部評価を終えて」，高知大学教育研究論集（高知大学大学教育開発委員会），第 5 巻：1－40，2001 年 3 月
３）「共通教育における外部評価の概要」，点検評価年報（高知大学大学点検評価機構），2001 年度版：91－107，2002 年 3 月
４）「「学生による授業評価」を考える―共通教育の授業改善に向けて―」，平成 13 年度文部科学省教養教育改善充実特別事業経費報告書（高知大学共通教育委員会），pp. 99，2002 年 3 月

【文責：小島郷子，奥田一雄】2003.2.20.